

調査地の概要

1. なまこ山（朝日が丘公園）

富良野盆地の西側には清水山から山部の鯨岡にかけて低い丘陵地帯があります。富良野市街地の西にはその一部が比較的独立した形で存在し、形がなまこのようであることから「なまこ山」と呼ばれています。富良野市ではここ一帯を朝日が丘公園として活用しています。標高は290mで、登り口の標高が約



なまこ山に向かう

190mですので、標高差は100mの山というよりは丘といった感じです。戦前からほぼ全山伐採され、その後頂上付近を中心にエゾヤマザクラが植栽されています。また西斜面にはカラマツの植栽がありますが大部分は、伐採後は切り株などから伸びた芽や、散布された種子から発芽した樹木が育ち二次林が形成されています。登山路は88箇所の地蔵を配した散策路とアスファルト舗装された道路があります。頂上付近には駐車場や水飲み場、遊具、東屋、各記念碑を配した広場もあり市民の憩いの場となっています。

この山の基盤は十勝溶結凝灰岩で山体は断層運動で形成されています。山の南端は2線川によって切られています、この川はこれより南につながる



丘陵をまたいで流れており、いわゆる先行谷となっています。つまり2線川は、次第に隆起するなまこ山丘陵を侵食しながら谷を作っているのです。(これらなまこ山一鯨岡丘陵の地史については科学部の研究を巻末に載せましたので是非一読ください。)

なまこ山の南にある8線川の露頭

山を覆う落葉広葉樹の代表的なものとしてミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ、アサダ、シラカンバなどです。小笠原他（2002）によると49種、外来種は植栽を含め12種が記録されています。

富良野地方の森林は冷温帯の気候から本来的には針広混交林になります。なまこ山は伐採されてから生じた二次林なのでエゾマツ、トドマツの針葉樹の侵入はまだ目立ちません。いわゆる里山の環境となっているのです。ただし人手を入れずに放置すると針広



混交林への移行は徐々に進みます。現に20年前には多かったシラカンバは寿命が過ぎて次々倒れ、ミズナラ、シナノキなどの割合が増えてきています。

このような里山の環境は多くの動物の住処となります。とくに昆虫類は豊富になります。なまこ山に生息する昆虫をすべて調べ上げることは不可能に近いことですが、蝶類では富良野高校の調査で59種記録されており、富良野市に生息する蝶の約8割を見ることが出来ます。富良野市周辺のほかのデータから推定すると甲虫類300種、蛾の仲間が400種昆虫全体では2000種以上になると考えられます。

草花も豊富で富良野高校の調査では85種記録されています。しかしイネ科など名前がわからない植物もたくさんあるのでおそらく300種類くらいは生育していると考えられます。富良野市史には106科718種が確認されています。

鳥類は同様に38種類記録されておりますが100種ぐらいは確認できると考えられます。富良野市史には40科126種が記録されています。

両生類はエゾサンショウウオ、エゾアカガエル、アマガエルの3種、爬虫類はカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウの3種記録されています。哺乳類はエゾリス、シマリス、エゾクロテン、エゾトガリネズミ、エゾアカネズミ、キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾシカを記録しています。